



クローズアップ
CLOSE UP

縁起物求めにぎわう

1月9日、江戸時代から400年以上続く新春の初市まつりを中心市街地で開催。前橋八幡宮で古だるまの供養「お焚き上げ」を行うと、市神様のみこしが木やりなどを連ねた渡御行列がまちなかを練り歩き。縁起物を求める人で、夜まで活気にあふれました。



訓練行動で意識高める

地震への備えと自助意識の向上を目的に、シェイクアウト訓練を1月17日に市内全域で実施。ラジオ放送で流れる訓練用緊急地震速報に合わせて、安全確保行動を確認しました。また、付随訓練として救護訓練や防災講演会を行い、防災への意識を高めました。



門出祝い笑顔あふれる

1月7日、ヤマダグリーンドーム前橋で成人祝を開催。新成人を代表して大胡中出身の井崎蓮太さんが「それぞれの選んだ道を生かし、同世代で力を合わせ、先陣を切って歩もう」とあいさつしました。本市では、3,487人の新成人が新たな門出を迎えました。

「練習はいつも大変だけど思うように打てたり、試合で勝てたりしたときはやりがいを感じます」
生まれつき下半身に障害があった川合さんが、車いすテニスを始めたのは6歳の時。全国レベルの選手も育てたコーチと共に、厳しい練習に励み着実に力をつけていった。「ランキング1位になった時は素直にうれしかったです。これからの試合への自信になりました」
そんな川合さんはみずき中の1年生。勉強とテニスの両立にも力を入れている。「学校生活との両立は大変。でも塾に通って勉強も頑張っ

ています。テニスで良い結果が出た時は、おめでとうと学校の友達に言ってもらえて、励みになりました」
練習を共にするコーチは、言われたことを表現する力が彼の強みだと話す。これから2人で目指すのはパラリンピックや四大大会への出場だ。「練習では厳しい言葉を掛けられたり、きつい動きがあったり、つらいと感じることもあります。でも目標があるから頑張れます」
「練習が嫌になることももちろんあるよね」とコーチと笑い合う川合さん。厳しい練習を耐え抜く力が、夢の舞台へとつながっていく。

いきいき
まえばし人

車いすテニスジュニア部門
日本ランキング1位
川合雄大さん・13歳
上小出町二丁目

厳しい練習も夢のため



赤城の恵ブランド
赤城山食パン
vol.50

☎風ラインふじみ ☎027-288-5422



外気温によって作業を少しずつ変え、心を込めて作っています。

前橋産の小麦を使用した「赤城山食パン」。風ラインふじみのふれあい工房で、毎日丁寧に焼き上げています。この商品で使用している小麦は、ダブル8号という品種。「この小麦を使ってパンを作りたい、という話が出たのですが、この工房にいるの

は素人だけだったので、なかなかうまくできなくて。何度も試行錯誤して、何年もかかってやっとできたんですよ」と所長の柳井さん。保存料や香料、着色料を使用していない、安全・安心でふわふわ食感のパンが実現しました。同館には、ほかにも職員が一人から作り上げている商品が多く並んでいます。

赤城山食パンは同館直売所で、2斤535円で販売しています。職員の努力が詰まった食パンで、前橋産小麦の味を堪能してください。

